

小林 志郎 / 台本 歌詞

蘭田 憲一 / 作曲

城 英輔 / 音楽ディレクター

M usical

カモメの少年と長老と巫女

太陽がのぼれば、朝がくる

■初演

一九七七年

■制作・上演

劇団「阿香車」

■スタッフ

台本・作詞・演出

鬼島 志郎（小林 志郎）

作曲

藺田 憲一

（なおM9「白いユリの歌」のみ、水島早苗／永田靖司作詞・作曲）

美術

伊藤 寿一

音響効果

高橋 嘉市

照明

堀井 俊和

音楽ディレクター

城 英輔

演奏

藺田憲一とティキシー・キングス

登場人物

長老ダンカン
巫女

大人のカモメ 1

2
3
4
5
6
7

カモメの兵士 1

2
3
4
5

ユリシイの父
ユリシイの母
ユリシイ

ユリシイの友人 ローラ

ジェニー

ハリイ

少年

1

2

3

4

5

少女

1

2

3

天国のカモメ サイ・シーガル
その弟子

1

2

3

4

5

6

第一場 「しあわせなカモメ村」

OVERTURE

静かな波の音が場内に響きわたる。元気なカモメたちの声が聞こえてくる。彼らの声が場内を
圧する。

M1「オーバーチャー」

カモメたちが場内のあちこちから登場する。そして舞台や客席の中を思いおもいに飛行する。老人のカモメ、中年のカモメ、子供のカモメ、太ったカモメ、やせたカモメなどいろいろいる。中央から長老、巫女、軍人の護衛カモメが登場する。寓話であるから、演出は固定概念にとらわれないことなく、想像の世界を展開してほしい。長老はヘリコプターからリムジンに乗って登場する。彼は新しいものが好きである。また一人で遊ぶゲームが好きである。コンピュータとけん玉が特に大好きである。

SCENE 1 カモメ村の朝礼

M2「太陽がのぼれば」

太陽がのぼれば 朝がくる朝がくる
ピヤピヤピヤピヤ ピヤピヤピヤピヤ

太陽が沈めば 夜がくる夜がくる
ピヤピヤピヤピヤ ピヤピヤピヤピヤ

西風が吹けば しけがくるしけがくる
ピヤピヤピヤピヤ ピヤピヤピヤピヤ

潮目をさがせば えさがいるえさがいる
ピヤピヤピヤピヤ ピヤピヤピヤピヤ

カモメたちは幸せそうに、元気に飛行する。長老ダンカンが兵士たちにガードされて尊大にまわっている。彼のそばには巫女がいつも乳母のように付き添っている。ダンカンは巨大な権力を手にした幼児である。兵士は権力の玩具であり、大きなけん玉と巫女は幼児性のシンボルである。

第3コーラスになると、全員が舞台に集合する。間もなく早朝の儀式が始まろうとしている。この時、少年ユリシーが客席へ飛び込んでくる。彼は自由に、明るく、歌い踊る。

M3「僕は飛びたい」

僕は翼で友をさがし
僕は翼で自由をさがす
僕は翼で飛んで行けるのだ

僕は翼で明日をさがし
僕は翼で自由をさがす
僕は翼で飛んで行けるのだ

突然、長老の笛の音が鋭く響きわたる。全員が急いで整列しようと右往左往する。長老はカン高い声で命令を下す。

以下、カモメたちは語尾に「ピャ」、または「ビャ」をつけて話す。これは「ネ」「ヨ」「ワ」「ウンダ」に相当するのであるから、役の性格・年齢などを考えて使用することが必要だ。

長老 全員集合。（交差点に立つ警官のように激しく笛をならし）整列、整列じや。その子供たち、列が乱れておる。よろしい。（とたんに機嫌がよくなり）皆のもの、これから朝食集會にまいるぞよ。

巫女 ダンカン長老様、しばらくしばらくお待ちください、ビーヤ。

長老 何じや。

巫女 ユリシーは子供のくせに掟を破りすぎますだ。

長老 そいつはけしからんぞ。どんなことじや、申してみよ。

カモメ1 長老様よりさきに飛びます。

長老 そいつはけしからん。

カモメ2 皆より沖の方へ行きます。

長老
そいつはけしからん。

カモメ3
違う魚を食べますだ。

長老
そいつはけしからん。

カモメ4
ユリシ一の飛び方は下品で、乱暴で、勝手に、みっともないってありわせせんわ。

カモメ5
うちの子供と一緒に朝食集会に出したくありません。教育上絶対問題があります。

長老
(ユリシ一の父親に向かって) こりや、ビッグ・ユリシ一、ここへまいれ。(雷のような大きな声で)

馬鹿もの、おたんちん、ヘツポコなす、ヒヨコおやじ、しぶがき、腐った牛乳、メロンの種。親となつちよらん。これで三度目ではないか。ユリシ一の父 ダンカン長老様、申し訳ございません。今度という今度はコンコンと言つてきかせますから、何とぞお許しください。

長老
ユリシ一のせいで海の神様がお怒りになられたら、海が荒れ、魚がいなくなり、悪い病気がはやって、我々は死ぬような目にあうぞ。

ユリシ一の父
はい、ピヤ。

長老
ナイフとフォークをもって掟を歌ってみよ。

巫女
掟の歌じゃ。

長老は大きなナイフとフォークをかざす。村人たちもナイフとフォークを両手にもち、リズムをきざみつつ歌う。

M4「掟の歌」

カモメ族の掟とは

ずつとずつと昔から伝わるもの

カモメ族の掟とは

ぜったいぜったい 破ってはならないもの

カモメ族の掟とは

新しいことをしないこと

冒険などをしないこと

そしてそしてみんな仲良くニコニコと

魚を食べて 長生きし

子供は親の言うことを

はいはい聞いて グジャグジャ言うな

大人は掟にあるとおり

長老様を尊敬し

みんな仲良く みんな仲良く 暮らすこと

長老

(掟のリズミカルな朗唱を聞いて、機嫌が直っている) よろしい、大変によろしい。(急に威圧的になって)

こりや、掟を破るやつは、この村から追放じゃ。ユリシー、おまえは罰として今日の朝食集會に出てはならん。(再び機嫌

よくなつて) では、皆のもの、朝食集會に参るぞよ。

カモメたち ピヤ。

M5「太陽が昇れば」

音楽と同時に、大きな白いテーブル・クロスが降りてくる。全員がクロスの背後に隠れる。食事をする姿がシルエットで見える。

ユリシーと両親の三人だけが後に残る。クロスが不吉な色彩に変化する。

SCENE 2 父の返事

ユリシー

お父さん。(父は返事をしない)

お母さん。(母はユリシーを抱きしめる)

Me 「息子よ」

息子よ ユリシー

おまえはどうして

大人の意見をきかんのだ

わしの意見をきかんのだ

おまえは馬鹿だ おお馬鹿だ

お願い ユリシー

かわいい坊や

わたしの願いをきいとくれ

大人の願いをきいとくれ

母さん死ぬほどつらいのよ

ユリシー ユリシー かわいいユリシー

ユリシー　　母さん、羽は飛ぶために、くちばしは魚を食べるためにあるんだろう。だから僕は飛んだんだ。そしたら長老より速かった。羽をどんどん動かしたら、いつのまにか沖に出ていた。そこにおいしい魚がいたからみんなに持ってきてやった。

父　　うるさい、言い訳は聞きたくない。掟を破るような奴はわしの息子ではない。この家を出ていけ。

母　　父さん、ピャピャ。ユリシーがあまりにかわいそうです、ピャ。

父　　何がかわいそうなもんか、こんな馬鹿息子。わしは情けなくて、情けなくて。もうおまえの顔を見たくない。出ていけ。

母　　ユリシー、さあ、父さんに謝るのよ。お願い、謝ってちょうだい。

ユリシー　　父さん、ごめんささい。僕はいい子になろうとしたんです。父さんや母さんに叱られるたびに。でも、僕よくわからないんだ。いや、母さん、ちよつと聞いてよ。空を飛んでいると、この辺やこの辺がたまらなく熱くなってきた、気が付くと僕は燃え出すようなスピードで急降下したり、太陽に溶けるまで高く舞い上がったりしているんです。

母　　ユリシー、止しなさい。

父　　わ、わしはもう知らん。おまえは勝手にしろ。おまえはわしの息子ではない、わしはおまえの父親ではない。これから長老様におまえを村から追放してもらいたいとお願いしてくる。こうして長老様や皆の衆にお詫びしなければ、のめめ生きちゃおれん。

母　　父さん、ユリシーを許してやってください。

父　　忘れろ、こんなでき損ないのことは。

母　　いいえ、忘れられません。どうか、許してやってください。

父　　できん。(追いすがる母を振り捨てて退場する)

母　　父さん。

母はユリシーを抱きしめ、歌う。

お願いユリシー
いとしい坊や
私の涙を知っとくれ
母さん死ぬほどつらいのよ
ユリシー ユリシー いとしいユリシー

M 8 「僕は飛びたい」

僕の翼は 父さんのもの
僕の翼は 母さんのもの
僕の翼は どこにあるんだろう
僕は翼で 明日をさがす
僕は翼で 自由をさがす
僕は翼で 飛んでいけるのだ

母は泣き崩れる。ユリシーは声の限りに歌いきる。
照明、暗転する。悲しい波の音が聞こえる。

SCENE 3 断崖の上の遊び場

ローラがユリシーを捜してやってくる。ユリシーが石けりをしている。ローラはユリシーを見つけ、歌いかける。

Mo「白くつつの歌」

白いユリはどこへ どこへ白いユリは
白いユリはどこへ どこへ白いユリは
わたしの夢をこわさないでよね
白いユリはどこへ どこへ白いユリは

ローラ (優しく) ユリシー、ピヤ。ユリシー。

ユリシー (ローラの声に嬉しさを隠しきれないが、意地を張って振り向こうとしない)

ローラ ユリシー、探したのよ。いま、長老たちがあなたのことを話し合っているわ。

ユリシー きっと、僕は追放されるだろう。

ローラ そうしたら、どうするつもり。

ユリシー わからない。ねエ、ローラ、どうしたらいいんだろう、どこへ行ったらいいんだろう。

ローラ 前にわたしが怪我をして飛べなくなったり、白いユリの花を持ってきたくれたわネ。そしていつも心の中の白いユリの花を枯らしてはいけなくて言ったでしょう。そうよ、青い大空を舞う白いユリ、翼を一杯に広げて羽ばたく白いユリよ。ユリシー、あなたは探してみるのよ、あなたの白いユリを。

M 9 「白ぶつこの花」

ローラ

白いユリはどこへ どこへ白いユリは
白いユリはどこへ どこへ白いユリは
わたしの夢をこわさないでよね
白いユリはどこへ どこへ白いユリは

ローラ&ユリシー 白いユリはどこへ どこへ白いユリは

白いユリはどこへ どこへ白いユリは
いつかはきつと帰ってくるだろう
白いユリはどこへ どこへ白いユリは

ローラとユリシーは手を取り合って歌う。ユリシーは少し元気を取り戻したようだ。
照明、ゆつくりと暗転する。

SCENE 4 村の集会場

カモメ村の人たちがシリアスに議論している。その中央にダンカン長老が腕組をして
天をにらんでいる。長老は墜落したヘリコプター（米海兵隊のAH-1Zヴァイパーのよう

M
O 「黒い儀式」

ないかつい乗り物が好みである)の操縦席に座っている。彼の周囲にはコンピューター、ファックス、衛星テレビのアンテナ、数々の怪獣の玩具が飾られている。議論の間、けん玉に集中しているが、その技術は名人の域に達している。
巫女は舞台前の中央に火を焚き、一心に祈っている。彼女はいつも神の声を聞いている。この村の運命を決してきたのだ。

だれだ だれだ だれだ
だれだ だれだ

黒いカモメは悪魔の鳥だ
病を運び 死の海にする
黒いカモメは悪魔の鳥だ
だれだ

だれだ だれだ だれだ
だれだ だれだ だれだ
海坊主を怒らせて

嵐をおこして 死の海にする
黒いカモメは悪魔の鳥だ
だれだ

だれだ だれだ だれだ
だれだ だれだ だれだ

イワシもエビもアジもサバも
アナゴもイサキもシラスもキスも
みんな殺して 死の海にする
だれだ

巫女 (神がかりの声で) ユリシー。

長老 (高いキンキンした声で早口にまくし立てる。それでもけん玉の手は止まらない) こりや、ユリシー。海の神様のお告げじゃ、仲間印を取ってしまえ。ユリシー、汝はわしの言うことを聞かず、自分勝手な飛び方をした。わしが食べない魚を食べた。わしより速く、高く、遠くまで飛んでわしを馬鹿にしおった。わしを馬鹿にしたことは、ここにいるカモメ全員を馬鹿にしたことだ。じゃによって、ここに置いておけん。出て行け。

ユリシー 聞いてください。

カモメたち 出て行け、ビヨ。

長老 (兵士たちに) 仲間印をはぎ取れ。

兵士たち ピヤピヤピヤ。

兵士たちはユリシーを逮捕し、仲間印を乱暴にはぎ取る。

ユリシー 待ってください、長老様、大人のみなさん。

M二 「追放だ」

追放だ 追放だ 追放だ

追放だ 追放だ 追放だ
黒いカモメは悪魔の鳥だ
病を運び 死の海にする
黒いカモメは悪魔の鳥だ
追放だ

村人のコーラスにオーバーラップして、ユリシーの台詞が語られる。

ユリシー もっと沖に出てこらんさい。お
いしい魚が一杯います。高く昇ってこらん
さい。世界が広がって見えます。本当です。

カモメは飛ぶために生まれたんです。だか
らもっと飛ぶべきなんだよ。もっと高く、も
っと速く、もっと遠くへ。もっと、もっと、
羽ばたくべきなんだよ。

カモメたち

追放だ 追放だ 追放だ
追放だ 追放だ 追放だ
海坊主を怒らせて
嵐をおこして 死の海にする
黒いカモメは悪魔の鳥だ
追放だ

追放だ 追放だ 追放だ
追放だ 追放だ 追放だ
イワシもエビもアジもサバも
アナゴもイサキも シラスもキスも
みんな殺して 死の海にする
黒いカモメは悪魔の鳥だ
追放だ

しかしユリシーは裸にされ、いかだにくくりつけられる。いかだは兵士たちによって荒海の中に放り出される。多くの村人は怒りの目でにらんでいる。兵士はマシン・ガンをかまえてユリシーを狙っている。

長老

(にくにくしげに。しかし彼は楽しそうに) さあ、ユリシー、お好きなことをなされ。お好きなものを食べなされ。お好きなように飛びなされ。ビヤビヤビヤビヤ。皆のもの、お昼寝に参るぞ。

カモメたち　ピヤ、ピヤ、ピヤ。

巫女の命令で金網のフェンスが舞台一面に張り巡らされる。ガラガラとという音、そして最後に冷たい施錠の音が響く。

ユリシーは筏にくぐられ、泣きながら歌う。

M12 「僕は飛びたい」

僕は翼で　明日をさがし

僕は翼で　自由をさがす

僕は翼で　飛んでいけるのだ

しかし彼は巨大な波の中に巻き込まれ、観客の視界から消え去る。波の音の中にかすかに歌声が残る。
照明、暗転する。

第2場 「離れ小島のユリシー」

SCENE 1 金色に輝く4羽のカモメとの出会い

M 1 3 「飛行の歌」

飛ぶってすばらしい　へいへいへい

君がカモメなら　へいへいへい

速くいエイ　高くエイ

遠くいエイ　低くいエイ

羽が折れるまで飛ぼうよ

飛ぶってすばらしい　へいへいへい

君がカモメなら　へいへいへい

速くいエイ　高くエイ

遠くいエイ　低くいエイ

羽が折れるまで飛ぼうよ

金色に輝く4羽のカモメが客席の中に飛来する。彼らはユリシーを肩に担いで一気にダウ
ン・ステージに連れてくる。金色のカモメはメカニックな話し方をする。

ユリシー

何をやるんだ。放してくれ。君達は誰だ。

弟子1

ユリシー君、あなたの友達です。

ユリシー

嘘だ。僕に友達なんかいるものか。二ヶ月前、仲間から追い出されてからずっと一人ぼっちで生きてきたんだ。

弟子3

信じなさい、ユリシー君。あなたの友達です。

弟子2

あなたを勉強のできるところへ連れて行くために来たのです。

弟子1

どうしました。恐いのですか。あなたには勇気がないのですか。

ユリシー

ああ、行くとも。

ユリシーと金色のカモメたちは本舞台にかけ上がる。上空から、サー・シーガルが降下してくる。彼は白髪の老人で、体は銀色の羽におおわれている。

サー・シーガル

レッスン、レッスン、レッスンじゃ。

M14 「飛行の歌」

飛ぶってすばらしい　　へいへいへい

君がカモメなら　　へいへいへい

速くいエイ　　高くエイ

遠くいエイ　　低くいエイ

羽が折れるまで飛ぼうよ

金色のカモメたちのレッスンが続く。ユリシーも真似をしようとするが、そのスピードにどうしても付いていけない。尻餅をつき、肩で息をする。金色のカモメたちは彼の周りを取り囲む。

弟子たち

アツハハハハ。

ユリシー

(尻餅をついたまま) どうしてあんなに速く飛べるんですか。

弟子2

(からかって) あなたは、いま、こう考えていますね。どうしてあんなにうまく急降下できるのか。

弟子3

どうして違う飛び方をするのか。

弟子4

ユリシーも勉強したいのだが、教えてくれますか。

ユリシー

どうしても心の中がわかるんですか。

サー・シーガル

ハツハハハハ。顔にそう書いてあるのじゃ。どうじゃ、ここで勉強してみるか。

ユリシー

し、します。どうか教えてください。

サー・シーガル

空を飛ぶ勉強は教えてもらうものじゃない。自分の体で確かめてみるものだ。まあ、よろし

い。ダッホデイル、頼んだぞ。

弟子1

かしこまりました、サー・シーガル様。

サー・シーガルは一瞬の内に姿を消す。サー・シーガルの飛行に驚くユリシーを弟子たちは舞台中央に連れだし、レッスンの体形をつくる。

弟子1

さあ、始めるぞ。レッスン・ワン。

ユリシー

ま、待ってください。何を、どういうふうにするんですか。

弟子1

おまえは飛行の勉強をしたいんだろ。

ユリシー

そうですけど。

弟子1

だったら、まず体を動かしてみるんだ。考えていたって飛ぶことは上達しない。まず、やってみるこ

とだ。

ユリシー

まず、やってみる。

弟子1

そうだ。さあ、ついて来い。

ユリシー

は、はい。

弟子1

レッスン・ワン。

M15 「飛行の歌」

レッスン・ワンが開始される。飛行の基本レッスンを繰り返して行われる。少しのミスでも修正される。ユリシーはそのきびしさに音をあげる。

飛ぶってすばらい　　へいへいへい

君がカモメなら　　へいへいへい

速くいエイ　　高くエイ

遠くいエイ　　低くいエイ

羽が折れるまで飛ぼうよ

(リフレイン)

レッスン・ワンが終了する。もう空には星が出ている。
照明、暗転する。

SCENE 2 レッスン・セブン

ユリシーが眠っている。夜が明けかけようとしている。弟子たちがユリシーを起こしに来る。彼が疲労で熟睡していることを知っている。驚かしてやろうと忍び足で近寄る。

弟子1

ユリシー、レッスんだ。

ユリシー

むにや、むにや。まだ夜が明けていないよ。

弟子2

ユリシー、勉強の時間だ。起きろ。

弟子たち

目を覚ませ。

弟子1

レッスン・セブン。

前の日よりも更に激しいレッスンが展開される。弟子たちは「もう一度、もう一度」ときびしく指導する。「レッスン・セブン」では、疲れはてたユリシーがダウンするシーンが2度ある。そのつど、気合を入れられ、立ち上がり、レッスンを続ける。このレッスンでは「波くぐり」がテーマである。ブルーの波布をもったアシスタント（黒衣）がユリシーを波の中に巻き込む。やっと顔を出す。また波が彼を呑み込む。この連続である

M 1 6 「飛行の歌」

飛ぶってすばらしい　へいへいへい

君がカモメなら　へいへいへい

速くいエイ　高くイエイ

イエイ　低くいエイ

羽が折れるまで飛ぼうよ

(2 コーラス、オーケストラのみ)

(3 コーラス)

飛ぶってすばらしい　へいへいへい

君がカモメなら　へいへいへい

速くいエイ　高くイエイ

遠くいエイ　低くいエイ

羽が折れるまで飛ぼうよ

このダンス・ナンバーは3コーラスまで続く。昨日よりも更に激しいレッスンが展開される。飛行のテクニクがユリシートの知っているものとまったく違う。もう一度、もう一度「ときびしい叱責が飛ぶ。」

弟子1 レッスン・エイト。

M 17 「飛行の歌」(ダンス音楽)

「レッスン・エイト」になると弟子たちは退場する。ユリシー一人で復習と予習をしている。彼はパターン・プラクティスを反復する。

やがて照明がゆっくりと暗転する。かすかな光の中にユリシーが勉強する姿がかいま見える。

いつしかユリシーは疲れて眠ってしまう。

SCENE 3 父と母とローラの夢

ユリシーの両親とローラが照明の中に浮かび上がる。「夢のシーン」である。ユリシーの姿は月光の中に見える。彼は眠っている。背景には、難破したヨット、嵐の岩場、吹雪の夜の岩場が投影される。そこは彼が生まれた家である。

M 18 「三年たって」

(母)

ユリシーが去って 三年たちました
一度抱きたい坊や

元気いるかしら

霧の深い夜

嵐の夜

浜へ出て待つ 浜へ出て待つ

しらぬい火

(ローラ)

ユリシーが去って 三年たちました

一目あいたいユリシー

元気でいるかしら

雪の降る夜

吹雪の夜

浜へ出て待つ 浜へ出て待つ

雪坊主

(父)

ユリシーが去って三年たちました

夢にまで見る坊主

達者でいてくれよ

潮の速い日

小潮の日

沖へ出て待つ 沖へ出て待つ

おやし舟

ユリシーが夢にうなされて、目を覚ます。

ユリシー　お母さん、お父さん！　ローラ！

両親とローラの姿が消える。
照明が明るくなる。

SCENE 4 お別れ

ユリシー　（まだ今の夢から冷めきっていない。両親とローラが見えているように語りかける）　父さん、母さん。僕ぼくきっと帰る。そしてお父さんに僕がここでおぼえた飛び方を見てもらい、お父さんの意見を聞きたい。それからみんなと仲良くします。不思議なんだ。あんなに大嫌いだつたみんなと仲良くしたい気持ちになつたんです。

サー・シーガルが急降下してユリシーの側に立つ。

サー・シーガル　不思議でも何でもないんだ、ユリシー。おまえは長老や仲間が憎らしい。見返してやろうと一生懸命に勉強した。その結果、誰よりも高く、速く、遠くへ飛べるようになった。そちは立派なカモメ、飛行を知ったカモメになれたのじゃ。

ユリシー 僕の憎しみはどこへ消えたんですか。

サー・シーガル

飛べないから、飛べる人を憎む。飛ぶことのできるカモメには憎しみはいらないのじゃ。さあ、ユリシー、昔の仲間のところへ戻るのじゃ。戻って飛ぶことを教えるのだ、どんなに憎まれても、嫌われても。「飛ぶってすばらしい。君がカモメなら」この心を忘れてはいかんど。

ユリシー

みんなが僕を許してくれるでしょうか。おまえが「愛する」気持ち、よいかな、「愛する」気持ちをもつて教え続ければ、きっとみんなは許してくれるだろう。

ユリシー

「愛する」気持ち。

サー・シーガル

そうじゃ。「愛する」気持ちこそ世界で一番大切なもの。それはおまえが大好きな白いユリの花のようにすがすがしいものじゃ。「愛する」というのは「人に何かをしてあげる」ことなのだ。

ユリシー

「愛する」つて、人に何かをしてあげることですか。

弟子1

そうだ。君に出来ることをね。

弟子2

ユリシーが自信をもつてできることは何だい。

ユリシー

今は、飛ぶことだけです。

弟子3

じゃ、飛ぶことをみんなに教えるんだ。それが「愛」だ。この白いユリの花を君にあげよう。これを君の愛の花畑にいっぱい咲かすのじゃ。さあ、みんなでユリシーを送ってやろうではないか。

弟子1

それでは……

弟子たち

さよならパーティだ。

M19 「さようならの歌」

さようなら さようなら

いつかどこかで

さようなら さようなら

きつとどこかで

また逢う日まで

さようなら さようなら

さようなら さようなら

いつか浜辺で

さようなら さようなら

きつと浜辺で

また逢う日まで

さようなら さようなら

さようなら さようなら

いつも歌いましょう

さようなら さようなら

きつと歌いましょう

また逢える日まで

歌いましょう 歌いましょう

サー・シーガルと金色のカモメたちは最初に来たように急上昇して消えていく。ユリシーはいつまでもいつまでも見送っている。暗転する。

第3場 「元のカモメ村」

SCENE 1 カモメ村の集会所

ダンカン長老以下、村の人たちが朝のお祈りをしている。二人の子供、ジェニーとハリーが祭壇の前に立たされている。村人の生活は三年前と少しも変わっていないようだが、長老の居室となるヨットは更に豪華に飾られている。マンガの本に混じって世界文学全集がワシ・セット書架に納められ、それにクロード・モネの絵が一枚壁にかけられている。

M 2 0 「太陽が昇れば」

太陽が昇れば 朝がくる朝がくる
ピヤピヤピヤピヤ ピヤピヤピヤピヤ

太陽が沈めば 夜がくる夜がくる
ピヤピヤピヤピヤ ピヤピヤピヤピヤ

ワン・コーラスが終了して間奏になると、巫女が長老の側により、二人の子供を指さしつつ、耳元に何事かささやく。長老は大きくうなずいて聞いていたが……

長老　なに、うん、そうか。それで。ムニヤムニヤだと。ああで、こうで、そうして、こうこうだと。けしか

らん、まことにもってけしからん。(兵士に)こりや、このガキどもの親を呼べ。

巫女　子供たちの両親は去年大シケの時、漁に出たまま帰ってきません。おそらく波に吞まれて死んだものとおもわれますだ。

長老　ギヤアギヤアと悲しむものがないというわけか。そりや好都合だわ。

村人1　まあ、ひどい。

長老　何か言ったかな。(押え込むように)何も言うはずがないな。(子供に)こりや、貴様たちは追放じや。

二人の子供　僕の言い訳も聞かないで。ひどいわ。

巫女　海の神様のお告げじや。追放せよ。

二人の子供　僕のパパは長老を助けるために死んだんだぞ。あなたの命令でシケの日に漁に出たのよ。

巫女　うるさい。神様のお告げは追放と出たのじや。

長老　さあ、朝食集會に参るぞ。

第一場と同じように大きなテーブルクロスが降りて来る。音楽のみ流れる。全員がシル

エットとなって浮かびあがる。

ユリシーが客席から登場する。

ユリシー　みなさん。みなさん、聞いてください。

長老　朝食の邪魔をするのは誰じや。

ユリシー　ユリシーです。ダンカン長老様。

巫女　なに、なに、なに。ユリシーだと。

長老
村人

(巫女にすがりついて) どうしよう、ねえ、どうしよう。
ユリシーだ。ユリシーが戻ってきたぞ。

長老は驚愕し、慌てふためく。巫女が長老をかばって、カモメの軍隊に命令を下す。

M 2 1 「あいつは悪魔だ」

巫女 あいつは悪魔だ 耳をかすな

長老 あいつは悪魔だ 耳をかすな

巫女 あいつは悪魔だ 見るではないぞ

長老 あいつは悪魔だ 見るではないぞ

悪魔だ 悪魔だ 悪魔だ 悪魔だ

あいつは悪魔だ あいつは悪魔だ

耳をかすな 見るではないぞ

ならんぞ

(リフレイン)

ユリシーの訴えが歌にオーバー・ラップして響く。

ユリシー 皆さん、ユリシーは一緒に飛びたいんです。もっと速く、もっと高く、もっと遠くへ。おいしい貝やおいしい魚を見つけてみましょう。

コーラスは巫女と兵士にリードされてユリシーの言葉を聞こうとしない。ユリシーが村人に近づこうとするが兵士の銃に阻まれる。村人たちは巫女に追われて退場する。ユリシー一人だけが残る。

照明が溶暗する。

SCENE 2 丘上の墓地

ここはカメメ村の墓地である。舞台上手のユリシー家の墓石がある。その前にたたずむユリシー。

ユリシー 父さん、母さん。

下手から、ローラが登場する。

白い百合はどこへ どこへ白い百合は
白い百合はどこへ どこへ白い百合は
私の夢をこわさないでよね
白い百合はどこへ どこへ白い百合は

ユリシー

ローラ。

ローラ

ユリシー、白い百合を見つけた、ピヤ。

ユリシー

ううん。

ローラ

見つからないので、悲しいの、ピヤ。

ユリシー

違うよ。僕が悲しいのは、僕と出会うとみんなが逃げてしまう、話を聞いてくれないからなんだ。

ローラ

あなたを恐がっているの。悪魔だと信じているからよ。

ユリシー

僕はみんなと仲良くしようと思って帰ってきたのに。ローラ、聞いてくれ。僕はただは役、高く、遠

くまで飛びたかった。でも、長老は許してくれなかった。それでずっと長老やみんなを憎んでいた。デモね、寒い雪国の長老様や仲間から、とつても大切な掟を教えてもらったんだ。それはね、仲間を愛せ、友達を愛せ、という掟なんだ。この掟さえあれば、どんな掟もいらないんだ。

ローラ

「みんなを愛せ」。

ユリシー

そう。それでね、愛とは出来ることをしてあげることなんだ。だから、飛ぶことを教えてあげたくて

帰ってきたんだ。

ローラ

(ユリシーをじっと見つめて) それで、今でも愛したいの、飛ぶことを教えたいの。

ユリシー

もちろんさ。

ローラ

じゃ、あなたの生徒を呼んでみたら。

ユリシー

どこにもいないよ。

ローラ

生徒の名前を呼ぶのよ。さあ、先生らしく、大きな声で、ジェニーって呼んで。

ユリシー

ジェニー。

ジェニー

(遠くから、彼女の明るい返事がかえって来る) はい、先生。(ジェニーが波の間から登場する)

ローラ

次に、ハリーって呼んで。

ユリシー

ハリー。

ハリー

はい、先生。(彼は急降下して登場する。ジェニーの横に整列する)

ハリーとジェニー

ユリシー先生、あなたの生徒です。今日から新しい飛び方を教えてください。

ユリシー

先生だなんて、恥ずかしいよ。

ローラ

先生、照れることないでしょう。もう一人生徒がいるの。

ユリシー

もう一人。

ローラ

そう。さあ、ローラって呼んで。

ユリシー

何だって。

ローラ

ローラには教えてくださらないの。

ユリシー

そうじゃないけど。

ローラ

じゃ、ローラって呼んで。

ユリシー

(喜びが爆発する) 呼ぶよ、呼ぶよ。

舞台が大海原に変わる。

SCENE 3 ザ・寺子屋

M 2 3 「寺小屋の歌」

ユリシー
ローラ
ユリシー
ハリー
ユリシー
ジェニー
ユリシー

(咳ばらいをして) ちょっと照れくさいけど、出席をとります。 ローラ。

ピヤ、先生

ハリー。

ピヤ、先生

ジェニー。

ピヤ、先生

みんなで勉強しましょう。

では、まず羽を広げて

体の力を抜いて、楽に、楽に。

みんなで勉強しましょう

みんなで勉強しましょう

海の広さを 山の高さを

より高く飛びましょう

より速く飛びましょう

よs遠くへ Let's Fly up the Sky

子供たちは歌い、踊り、飛行のレッスンを継続する。 照明、溶暗する。

SCENE 4 嵐と波と病人と

暗闇の中から暴風雨の効果音が響いてくる。目が眩むような稲妻、続いて雷鳴。
ローラのユリシーを探す声が聞こえる。照明が溶明する。ローラが登場する。

ローラ

ユリシー、ユリシー。

ユリシー

(けが人を肩に担いで登場する) どうした、ローラ。

ローラ 助けてあげて。この嵐でもう三日も食事をしてないの。それで病人がどんどん出ているの。ユリシーなら助けてもらえるって、みんなあなたを頼りにしているの。ねえ、助けてあげて。

病人たちが現れる。彼らはボロをまとい、あちこち傷ついている。顔に付けたマスクが死と苦痛と恐怖を表 現している。

M 2 4 「病人の歌」

助けてください ユリシー

苦しい 苦しい

寒い 寒い

羽根が痛い 目が見えない

ユリシー

海坊主を怒らせた

悪魔を追い払ってください

ユリシー ユリシー ユリシ

M25 「いれをあげる」

これをあげる 食べなさい

これをあげる 飲みなさい

これをあげる 身に着けなさい

あなたはどこが痛いの

元気になりますよ

青い顔して 寒いので

抱いてあげますよ

あなたはお腹がすいてるの

あなたに あなたに

魚を捕ってきてあげましょう

さあ 僕の生徒たち魚を捕りにいこう

ジェニー

こんな嵐の海へですか。

ハリー

僕たち、死んじゃうよ。

ユクシー

いや、大丈夫さ、僕たちには愛の力があるさ。サー・シーガル先生、仲間の人たちが困っているのを助

けてあげるのも「愛」っていうやつでしょう。(ユリシーの問いかけに答えるような激しい雷鳴) ねえ、そうでしょう。

(今度は答えずとわかる更に激しい雷鳴)

M 2 6 「波の踊り」

四人の子供は嵐の海へ飛び出して行く。大きな波がくる。四人は上手に波頭を飛び越えて魚を捕まえ、村人のところへ戻って来る。病人たちに新鮮な魚や貝や海藻を与えたとまたすぐ嵐の海へ戻って行く。大きな波がローラを捕まえ、海中に引き込む。ローラの悲鳴を聞いたユリシーたちは巨大な波の下に潜り、ようやくローラを助け出す。

四人は何回も海と仲間の間を往復する。ジェニーが強い横風を受けて海上に落下する。

三人が抱えあげて、襲い来る波から逃れる。再び四人の愛の飛行が続けられる。

いつしか嵐が去って、美しい夕日が水平線を真っ赤に染めている。泡だっていた海が、嘘のように静まり返り、黄金色に輝いている。

病気や飢餓で苦しんでいた人たちが立ち上がる。仮面を捨てている。誰からもなく歌い出す。

M 2 7 「ユリシーのうた」

ユリシー ユリシー

白いユリの花

ユリシー 浜辺の砂に咲いた

白いユリの花

ユリシー ユリシー

ユリシー ユリシー

白いユリの花

ユリシー われらの中に咲いた

白いユリの花
ユリシー ユリシー

一緒に飛ぼうよ
翼つらねて

あの青い空に
愛という字を書こうよ

カモメたちは歌を歌いつつ、砂浜の上空を乱舞する。しかし不吉な稲妻がときどきギラつと走る。兵士が二人、客席の中で村人を偵察していたが、電話を取り出して巫女へ連絡する。

M 2 8 「わしは長老、やつは悪魔だ」

長老と巫女が砂丘のかなたから、戦車を従えて登場する。上空から最新鋭のジェット・フアイターが超低空飛行で飛来する。ミサイルがさく裂する。威嚇攻撃である。村人たちは逃げ惑う。

(長老) わしは長老 やつは悪魔だ

(巫女) あなた様は長老 やつは悪魔だ

(リフレイン)

巫女
長老
兵士

あなたは様は長老です。やつは悪魔です。
わしは長老だ。あいつは悪魔だ。ひっ捕らえろ。
ピヤ、ピヤ、ピヤ。

戦車の上に重機関銃が据え付けられる。無線の交信が大きな音で飛び交う。ジェット機の再来襲。続いてヘリコプターが岩陰から侵入して来る。戦車はユリシーたちを包囲する。

M 2 9 「おれは兵士だ」

おれは兵士だ やつは悪魔だ
掟を破って 人を惑わす
やつは悪魔だ

(リフレイン)

SCENE 5 戦いの最中

ついにユリシーは逮捕される。兵士たちによって砂の中に、首だけ残して埋められる。舞台はすべてのものが焼け落ち、廃虚となっている。

M30 「長老の輪投げ」

地獄の悪魔とお遊技だ

悪魔がいやがりや なおおもしろい

一の輪はずれりや

二の輪が待っている

地獄の悪魔とお遊技だ

悪魔がいやがりや なおおもしろい

二の輪はずれりや

三の輪が待っている

長老は上機嫌で、ユリシ一の首に向かって輪投げをして遊ぶ。巫女はユリシ一を虐待することに喜々としている。

客席に追いやられた村人たちはユリシ一を悼んで切々と「白い百合」の歌を歌う。悲しみの歌声の中からいつしか勇気に満ちた歌声が起こる。

M31 「白い百合」

白い百合はどこへへ どこへへ白い百合は

白い百合はどこへへ どこへへ白い百合は

私の夢を こわさないでよね

白い百合はどこへ どこへ 白い百合は

白い百合は

どこへ

どこへ

白い百合は

白い百合は

どこへ

どこへ

白い百合は

みんなの夢を 夢を実現しよう

羽で風を叩き 羽で波を叩き

M32 「戦いの白いユリ」(ダンス・ナンバー)

人々は勇敢にも長老たちや兵士に戦いを挑む。ジェット戦闘機、戦車、ミサイル、マシンガンなど豊富な兵器を要する長老軍が優勢である。しかし新しい飛行の方法を学んだ少年少女たちの果敢な攻撃に長老軍はしだいに敗色が濃くなる。兵士たちは休戦を申し出る。

長老と巫女は村人に姿を変装して逃走する。
無駄な戦争が終わる。

村人たちは砂の中からユリシーの体を掘り起こす。深手を負った彼は目を閉じたままである。

ローラ ユリシー。

ジェニー ユリシー、死んじやいやだ。

ハリー おまえが死んだら、白いユリの花が枯れてしまっじやないか。

ローラ ユリシー、白いユリのお花畑を作るって約束したでしょう。

村人1 ハリー、あの一番波の荒い岩場の一番深いところに青い貝がある。それを取ってきなさい。ジェニー、島の反対側へ行くと一番潮の流れの速い場所がある。そこに潜ると白い海草がある。それを取ってきなさい。(二人はそれぞれ逆の方向に飛び立つ) さあ、ほかの人はユリシーをその白い百合の上に移して下さい。ゆっくり、ゆっくりだぞ。

ユリシーを抱えて移動させる。

村人2 気をしっかりと持て。こら、眠るんじやねえぞ。

ローラ ユリシー。

ジェニーとハリーが貝と海草を取って帰って来る。村人1と2が貝と海草を調べて薬を作る。薬を飲ませようとするが、すでに手遅れである。

村人1 さあ、飲むんだ。苦しくとも飲むんだ。

村人2
（頬を叩いて）口を開ける、馬鹿、口を開けるんだ。
ローラ ユリシー、お願いだから、薬を飲んで。

ユリシーがうつすらと目を開けて、何かを言う。ローラと村人1が耳を近づけて聞く。

ローラ 何と言ったの、ユリシー。ねえ、いま、何と言ったの。

村人1 （ユリシーの言葉を繰り返して）白いユリの花だと。大丈夫だ。みんなが力を合わせてきつと咲かせるから。約束するぞ。

村人2 心配するな。今度はおれたちが助ける番だから。

ユリシー ローラ。

ローラ ここよ、ピヤ。（手を握る）

ユリシー ジェニー、ハリー。

ジェニーとハリー ユリシー、ピヤ。

ユリシー 父さん、いつも父さんに叱られるたびに、僕いい子になろうとしたんです。本当だよ、母さん。信じてくれるよね、母さん。ユリシーはいい子になろうとしたんだ。みんなと白いユリの畑を作ろうとしたんだから。信じてくれるなら、母さん、手を握って、そうだと行って下さい。

村人たち そうだよ、ユリシー。

ユリシー、絶命する。あちこちに泣き声が起こる。

ローラ ばか、ばか、ばか。あたしたちを置いていつてしまった。 （激しく泣く。泣きやむと手を合わせて）さ

ようなら、ユリシー。

M33 「ユリシー」

ユリシー ユリシー

白い百合の花

ユリシー 浜辺の砂に咲いた

白い百合の花

ユリシー ユリシー

ユリシー ユリシー

白い百合の花

ユリシー われらの胸に咲いた

白い百合の花

ユリシー ユリシー

村人1 さあ、ローラ、ユリシーの遺言を、愛の遺言を忘れてはいかんぞ。

ローラ (泣きながらも、笑顔を作って) みなさん。

村人 ピヤ。

ローラ 砂浜に、僕の心に

村人 ピヤ。

ローラ あなたの胸に

村人 ピヤ。

M 3 4 「愛の歌」

(砂浜に 僕の心に)

(あなたの胸に)

ロー・ソロ

白い百合の花を

咲かせよう

美しい愛の花園を作ろう

コーラス

砂浜に 僕の瞳に

あなたの声に

白い百合の花を

咲かせよう

美しい愛の言葉を語ろう

今日も明日も

あなたも僕も

白い百合の歌を

歌いませよ

美しい愛の世界を歌おう

村人たちの歌声が力強く、明るく広がっていく。テーマに関連した文字やスローガンを書いたいろいろなプラカードが会場をうめぐる。ユリシーは決して英雄ではなかったのだ。演出

は、ユリシーがやんちゃな一人の少年だった事実を鮮明にしなければならない。
この歌はいつしかカーテン・ユールの音楽となり、最後には「さようなら」の歌になっていく。俳優たちは歌いながら退場する。そして終演になる。

「カモメの少年と長老と巫女」のご意見をお聞かせください。
小林志郎

メール・アドレス: DQJ10334@nifty.com